

# 全科協 ニュース

URL <http://jcs.m.kahaku.go.jp>

科学博物館協会 ☎110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9857 Fax.5814-9898 平成15年9月1日発行(通巻第192号)

## 特集 外国人向け案内

### 日本科学未来館の外国人向け対応

日本科学未来館 科学館連携グループ長 牧原 正記

政府関係機関からの紹介による公式の外国人訪問客に加え、最近では外国人の一般来館者も目立ってきた。情報発信拠点として、世界へのネットワークを広げることを目指している日本科学未来館が、外国人向けにどのような対応をしているかについて紹介する。

2003年7月、日本科学未来館は開館2周年を迎えた。館内では、ASIMOやピノ、レスキューロボットが活躍し、宇宙居住棟やしんかい6500が鎮座し、インタープリターやアテンダントが来館者への説明・対応にがんばっている。これら広範囲にわたる日本科学未来館の活動のうち、1.海外からの来客への対応と、2.海外との連携・協力的を絞って説明する。

#### 1. 海外からの来客への対応

海外から日本科学未来館に直接来館する外国人に対する対応について、具体例を挙げて解説する。

##### ①来館者への案内、招待者への対応

日本科学未来館では、一般の外国人来館者に対する特別な館内ツアーは行っていない。日本人と同じように、館内を自由に見てもらうことを前提としている。団体客の場合にも、基本的には、通訳を連れてきてもらい、展示室のそれぞれの場所でインタープリターの話す内容を通訳することとしている。ざっと案内する程度の館内ツアーについては、現場スタッフが対応しているが、これについても、スタッフ案内者が話す言葉を同伴の方に通訳してもらうことにしている。特に、VIPの含まれる招待者については、できるだけ母国語による説明で対応した方がいいということで、窓口となっている機関に通訳を連れてきてもらうこと

にしている。

なお、個別の訪問客については、言語が英語であれば科学技術スペシャリストが対応している。また、月曜日と木曜日は英語の書き物や会話を指導する非常勤の外国人スタッフが出勤しており、来客の対応をすることもある。

##### ②館内展示パネル、スタッフによる説明

館内の展示パネルは、英語との併記になっている。また、タッチパネルによる映像も基本的には、日本語と英語から選択できるようになっている。研究者インタビューなどのタッチパネルでは、英語キャプションにしている場合もある。好きなビデオ映像が見られるサイエンスライブラリ(3階)では、600本以上のプログラムのうち、300本近くは、英語にも対応している。

館内には、常時40名ほどのインタープリターが解説・案内をしているが、半数ほどは、英語を話すことができ、それぞれの部署で活躍している(写真1)。また、少人数の館内ツアーなら、科学技術スペシャリストが対応することも



写真1 インタープリターの半数以上は、英語での説明可

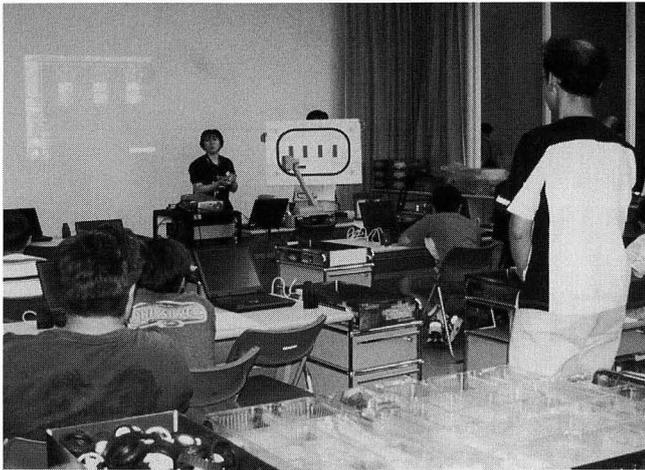


写真2 実験工房の実験コースは、英語での対応可

可能である。5階にあるVRラボは、38万キロ上空(月の位置)から地球に向かい、お台場の周辺を未来館の中まで自由に飛び回れるというバーチャルリアリティのシミュレーターであるが、ここの解説はアテンダントが英語のキャンペを見ながら話している。実験工房は、ロボットコース、ダイヤモンドコース、DNAコースなどがあるが、ここは、スタッフによる英語対応が可能である(写真2)。

全天周型のドームシアターでは、上映中の3本のうちGALAPAGOSのみ英語対応となっている。English Translation Unitを渡されて、イヤホン形式で聞くことになる。最大35名分まで用意されている。

### ③印刷物・ホームページ

フロアガイドは、日本語・英語・中国語・韓国語・フランス語・スペイン語の6か国語が用意されている。1階の案内で、アテンダントが日本語で声をかけ、外国人と判明したら、もっとも適切なフロアガイドを選んでもらうことにしている。①で述べたように、外国人来館者に対する特別な館内ツアーはしていない。コンセプトブックと要覧は、日本語版と英語版の両方が用意されている。

ホームページは、日本語と英語の切り替えができるようになっている。多くの情報がタイムリーにこの中に含まれている。(URL <http://www.miraikan.jst.go.jp>)

### ④ミュージアムショップ・その他

人気のミュージアムショップでは、特に外国人を意識しているわけではないが、輸入もののグッズには、英語の取説をそのまま残したものもある。コンセプトブックの英語版も置いてある(520円)。近いうちには、ある種の英語版書籍も導入予定と聞いている。

## 2. 海外との連携・協力

来館する外国人ではなく、海外の科学館との連携、関係機関との協力イベントの実施、職員研修の一環として海外の科学館等の視察などを実施している。

### ①海外の科学館・機関との協力

人材交流・企画展示の相互融通・情報交換(インターネット交流)の実施、研修、シンポジウム、特別展などの共同企画を目指して、世界各国の科学館と連携している。特に次の科学館とは、MOUを結んで協力を開始している。

1. The Nobel Foundation, The Nobel Museum ノーベル財団、ノーベル博物館
2. Questacon - The National Science and Technology Centre オーストラリア、クエスタコン
3. The National Science Museum, Korea 韓国国立中央科学館
4. Science Museum of Minnesota, USA アメリカ合衆国、ミネソタ科学館

### ②海外との協力イベント

英国の宇宙センターとのテレビ会議を実施している(写真3)。また、日米科学技術理解増進専門家会合(科学館、大学、メディア)を行い、これをきっかけにした協力も準備している。

### ③連携協 海外研修

全国科学館連携協議会(平成15年8月現在161館)の事務局を日本科学未来館が担当しているが、ここでは、海外科学館視察研修を毎年11月ごろに実施している。全国から20名近くが参加し、欧米の科学館を訪問して見聞を広げ、海外とのネットワークを構築している。



写真3 英国宇宙センターとの協力イベント(写真は、英国側)

# 外国人向けの案内 Welcome all equally

林原自然科学博物館 井島真知

パナソニックデジタルネットワークミュージアム [林原自然科学博物館 ダイノゾアファクトリー] (以下 DF) は、その名が示すように、松下電器産業と林原自然科学博物館の共同開発による展示施設である。松下グループの総合情報発信拠点であるパナソニックセンター内に位置する故か、あるいは後述する携帯情報端末などがすべて英語対応をしているためか、外国人の来館も多い。DF の展示開発は、すべて日英の 2 カ国語対応にすることをあらかじめ決定してすすめた。ここでは、その開発の過程とオープン後の運営、見学者の反応について、簡単に紹介したいと思う。

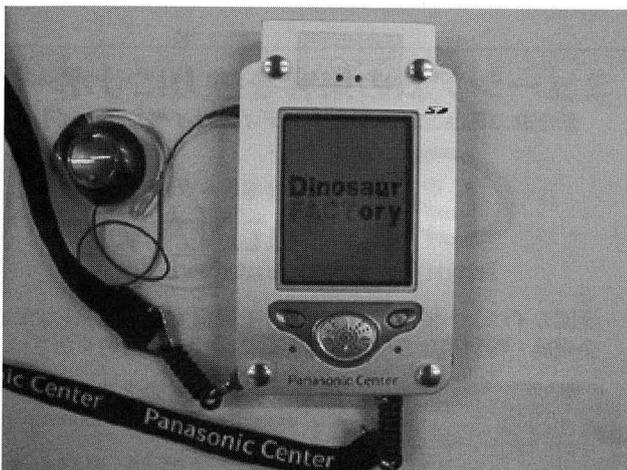
DF では、主な見学ツールとして携帯情報端末(DF ではファクトスコープと呼んでいる)を採用している。見学者は、まず入口でファクトスコープとヘッドセットを受け取って DF 内へとすすむ。DF 内には 34 箇所の通信スポットがあり、そこにファクトスコープを近づけると、音声と画像が自動的に再生される。こうして再生される音声は全部で 100 種。それぞれの音声はおよそ 30~40 秒程度で、音声にあわせてディスプレイに画像もあらわれる。英語対応にするにあたり、これら 100 種の解説について、すべて英語バージョンをつくることとなった。

英語バージョンをつくるにあたっては、まず、すでに制作が終了していた日本語版を翻訳者に英訳依頼した。とはいえ、日本語のテキストをそのまま英語にするだけではうまくいかない。日本語版をつくる時にも、短いことばでメッセージを的確に伝えるためのことば選びは慎重に行っ

たが、全く同じ作業を英語バージョンでも行うこととなった。翻訳されたテキストは、その後エドゥケーター (展示やプログラムによる教育活動を専門に行うスタッフ。DF の展示開発を中心になってすすめ、ファクトスコープのトピック選びやテキストづくりも行った) が、展示の意図、メッセージが正確に伝わるものになっているかを検証した。さらにその後、研究者が学術的な立場からことばの使いかたなどを再度検証した。音声の収録の際も、翻訳家、エドゥケーターの双方が立ち会い、その場でことばの最終調整を行った。

DF にはファクトスコープの他に、さらに詳しい情報をさぐるためのコンピュータや映像解説があるが、このコンテンツもすべて、上記と同じ手順で英語対応を実現した。これらの制作過程を経て言えることは、英語版をつくるといっても、単に翻訳者に英訳を頼めばよいものではないということである。見学者には中国、韓国からの方も多く、中国語版、韓国語版も、との要望もあるが、館のスタッフがその言語を分かっていない限り、館側の意図する内容の保証はむずかしい。そのため現時点では、英語以外の言語版を見学者に提供することは躊躇している。

この他、展示グラフィックについても二カ国語対応を行っている。DF の展示は、グラフィックといっても、見学者向けのいわゆる解説パネルではなく、研究者や化石技師たちが用いているメモや資料というかたちで、手書きのものも多い。情報機器にかかわるコンテンツと異なり、展示グ



これがファクトスコープ



スタッフと一緒に標本に触れる

ラフィックには物理的な制約があり、すべてを英語対応にしているといえない部分もあるが、新しいメモなどを追加する場合も、最低限の英語はつけるようにしている。

ところで、すべてを二カ国語対応にすることを目指したのは、見学者の満足を第一に考え、どんな見学者にも楽しい一日を提供したいという思いがあったからだ。言語の問題は、日本語を話さない見学者にとっては大きなバリアとなってしまう。日英対応は、そのバリアを取り除くための方法である。もちろん、見学者にとってバリアとなりうるものは他にもある。見学の主なツールが音声であるということは、聴覚に障害のある方には大きなバリアとなるだろう。そこで、ファクトスコープにかわる見学ツールとして、冊子型の見学ガイドを準備している。また、視覚に障害のある方には、スタッフがいっしょに標本を触ったり、歩きながら恐竜の大きさを体感するなどのツアーを実施している。

見学者の満足を第一に考えて展示を開発、運営するために、DFでは、展示開発の初期の段階でCS（顧客満足／Customer Satisfaction）理念をつくった。5項目からなるCS理念は、展示の開発過程、そしてオープン後の運営を通じて、スタッフ全員の行動指針となっている。DFのフロアにはスタッフが常駐しているが、これもCSを達成するためのひとつの手段である。そして、フロアスタッフが見学者ひとりひとりのニーズをよみとり、見学者の満足度を高めるための工夫をするのは、言語の違い、障害の有無にかかわらず、すべての場合において同じである。見学者のニーズを予想して、英語版のファクトスコープ、冊子型の見学ガイドブックなどを準備してきたが、今後もさまざまなニーズに対応できるような工夫をしていこうと考えている。

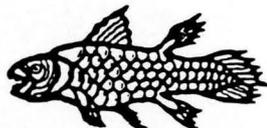
見学者が残していく感想を見ると、スタッフとのコミュニケーションを喜ぶ声が多い。外国人対応について言えば、フロアに立つスタッフ全員が英語が堪能なわけではないが、日本語でのサービスとの間に格差があってはならないと、カード式の会話帳をつくり、積極的に話しかける工夫をしている。最近では「DF とっさのひとこと」というノートをつくって、困った時のことやうまくいった会話などを書きためて、スタッフ間で共有することもはじめた。一番大切なのは、どの人にも同じ質のサービスを提供したいというスタッフの気持ちだろう。その気持ちがあれば、いろいろな工夫が生まれてくるし、サービスも向上していくと考えている。

先日、ひとりでDFを訪れた外国人女性Mさんが、翌日また、視覚に障害のある友人（外国人）を連れてDFを訪れてくれた。この友人に対して、スタッフは標本を触りながらのガイドツアーを実施したが、この友人もその翌日また、ひとりでDFを訪れ、別のプログラムに参加してくれた。後日、Mさんから手紙をいただいた。そこには、英語版のファクトスコープのおかげで他の博物館で過ごすよりもずっと長い時間を過ごすことができたこと、視覚に障害のある友人もDFのツアーを楽しんでくれたこと、そして、他のスタッフが聴覚に障害のある女の子を筆談しながら案内しているのを見かけて感動したこと、が書かれていた。その手紙の最後には、CS達成をめざす私たちスタッフにとって本当にうれしい言葉があった。“Your museum is a great facility that welcomes all people equally. We love it!”（ダイノゾアファクトリーは、みんなを等しく迎えるすばらしい施設です。すごくいいと思います！）

美術

## はく製

〈各種生物〉  
剥製・骨格標本・レプリカ  
加工/販売/リース



有限 東洋近代美術研究所

製作所 〒272-0816 ☎047-397-5678  
千葉県市川市本北方2-18-1 FAX 047-338-1978  
本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564

ミュージアムの集客を強力にサポート  
新たなコミュニケーションメディア【イベントナビ】

イベント情報ポータルサイト  
**EventNAVI**  
<http://www.eventnavi.ne.jp>

全国のイベント情報年間約10万件を発信するイベントナビ。  
企画展・特別展などへの来場促進に、ぜひご利用ください。

イベント情報  
無料登録受付中!

## 株式会社 乃村工藝社

本社：東京都港区芝浦4-6-4 〒108-8565 電話 03-3455-1171(代)  
ホームページ <http://www.nomurakougai.co.jp>

ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング  
企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工  
ISO9001認証取得（文化機構カンパニー）ISO14001認証取得（MCカンパニー）

# 国立民族学博物館の展示における外国語対応

国立民族学博物館・情報管理施設長 久保正敏

国立民族学博物館（略称民博）における展示は、世界諸民族の社会と文化に関する情報を人々に提供し、諸民族についての認識と理解を深めることを目的としている。展示場は、オセアニアから始まり東回りで日本文化に至る12の地域展示と、言語および音楽をテーマとする通文化展示、情報機器を使った展示、合わせて15のブロックから成る。

1974年の民博創設から1977年の展示一般公開までの間、大きな議論になったのが、展示で使用する言語の問題であった。世界の文化を対等に扱う民族学をベースとする展示であるだけに、各言語を対等に扱うべきであり、外国語として英語のみを併用する、というわけにはいかない。長い議論の末、(1)展示資料1点ごとに付けるネームプレートや解説パネルなどは日本語表記のみとする、(2)外国語はあくまで補助的手段と位置づける、という原則が立てられ、各ブロック入り口のブロック名表示板にのみ多言語を用いること、その候補としてユネスコ公用語（6カ国語）に準拠し、かつ使用人口の構成も考慮して、英語、フランス語、ロシア語、スペイン語、アラビア語、中国語、ヒンディー語、イタリア語の8カ国語を採用することとなった。その後、1996年の第7展示棟完成時には、より入館者のニーズを反映するために採用言語を見直し、ヒンディー語、イタリア

語に代わり韓国・朝鮮語、ドイツ語を採用した8カ国語となっている。

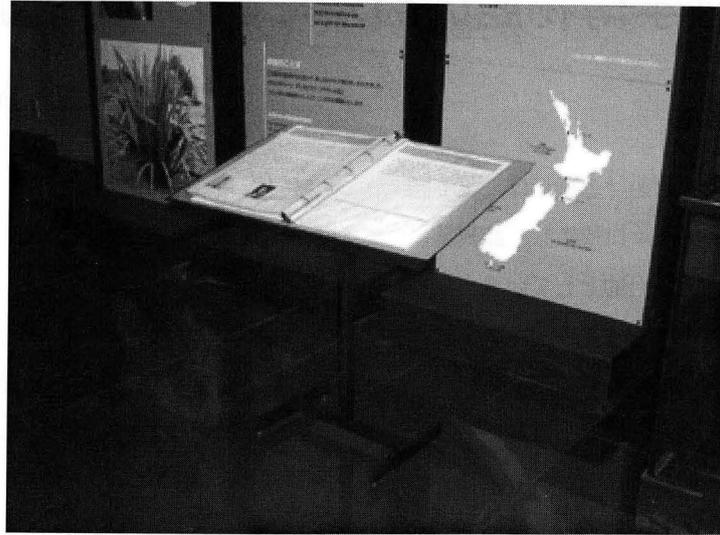
上記(1)(2)の原則は現在も継承され、しかも近年はグローバル化の広がりの中で英語に偏重することへの批判もあって、外国人対応の充実を英語のみで図ることは避けられてきたが、他方では、来館する外国人に対して不親切だとの意見も根強く、補助的手段の範囲内で多言語による案内の充実も図られてきた。

例えば、一般公開の翌年には英語版の展示案内リーフレットを作成、1981年には「ビデオテーク」（民博が開発したビデオライブラリー・システム）番組の一部（現在9番組）に英語版を作成、1998年には展示各ブロックにつきA4サイズ1枚づつ計15枚をセットにした「解説シート」を英語、中国語、韓国・朝鮮語で作成、1999年に導入された「みんなく電子ガイド」（民博が開発した携帯型の展示解説端末）に英語版と中国語版の番組を作成、など、解説員やボランティアと言った人的手段ではなく、紙メディアや電子メディアによってサービス充実を図る方向を採ってきた。

一方、最近、博物館表象論における、展示する側と展示



展示場入口総合案内板(写真左端)にある8カ国語による案内



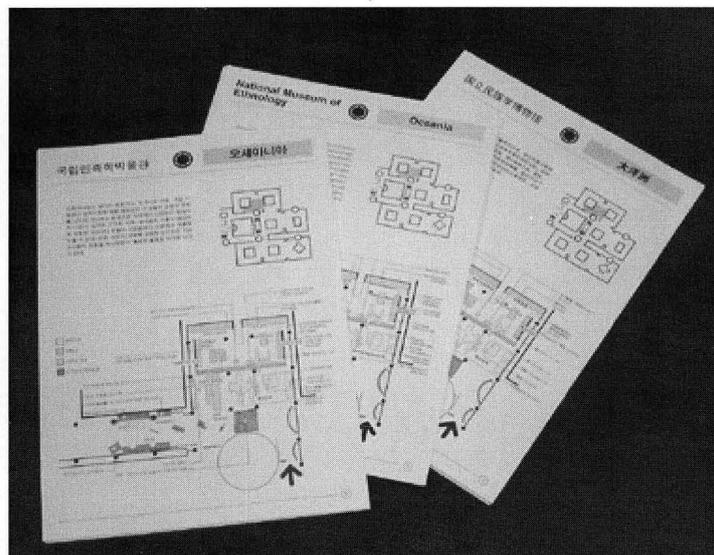
オセアニア展示マオリ・コーナーに置かれた、マオリ語による「解説ブックスタンド」

される側の対話回路を確立すべきだとの意見の強まりや、この10年間行ってきた国際協力事業団への協力事業である「博物館学国際協力セミナー」に参加した各国の博物館関係者からの指摘を受けて、展示されている当該地域からの入館者が、自文化がどう展示されているかを知る手だてとして、展示対象地域の言語による補助的解説を加える試みも進められている。例えば、2001年に一部リニューアルされたオセアニア展示の中のハワイとニュージーランドの先住民展示コーナーには、それぞれハワイ語とマオリ語によるA3大「解説ブックスタンド」を設けている。

これら外国語版の翻訳作業は、専門会社に外注するほか、

各国をフィールドとする多数の教員や外国人教員が在籍する強みを生かし、また、数ヶ月間滞在する外国人研究員の協力、あるいは、近隣の大阪外国語大学の協力も得るなどして、柔軟に対処している。その経費には、紙メディアによるものは主に展示場運営費を、電子メディアによるものは情報システム関係の整備費を充当している。

実際に入館する外国人数の把握は行っていない。なぜならば、国籍とその人のアイデンティティとしての文化とは必ずしも一致しないから国籍を問うことはあまり意味がないし、国籍・文化・使用言語などをこちらから問うことはプライバシーの観点からも望ましくない、と考えられるからである。



韓国・朝鮮語、英語、中国語の3カ国語による「展示解説シート」

入館者数	一般	高・大学生	小・中学生	計
個人	85,396	15,287	10,263	110,946
団体	8,738	16,989	48,964	74,691
計	94,134	32,276	59,227	185,637

なお、参考のために、入館者の希望により窓口の係員が提供した補助的メディアの数量を下に掲げておく。いずれも2002年度のものである。あわせて同年度の入館者数も下に示しておく。

英文パンフレット（手帳大）	提供数：2300
展示解説シート（A4大）	韓国・朝鮮語版：250、英語版：170、中国語版：150
電子ガイド貸出数	日本語版：5937、英語版：304、中国語版：63

現在、これら外国語版メディアの利用者からの意見聴取は行っていないが、今後は当然、こうした評価とその反映が必要になる。また、これまでは電子メディアによる外国語対応も進めてきたものの、電子機器開発やコンテンツ製作のコストが大きいこと、電子機器は陳腐化が早いこと、

などを鑑みれば、来年4月予定の法人化を控えた今、費用対効果を考えて、最新技術の導入にとらわれず、新旧メディアの最適な組み合わせ（これこそが本来のマルチ・メディアであろう）による展示情報提供のあり方を真剣に考える時期に来ていると言えよう。さらに、展示対象地域の人々の知的財産権や人格権・肖像権への対処がますます重要になっている現在、それらの人々との協力・共同体制の制度設計も、今後の重要な課題となるだろう。



「みんなく電子ガイド」英語版表示画面

# 歴史体感

ロボットが誘う、歴史伝説の世界

伝統文化の保存と伝承を目的とした施設、建設にも積極的に参加しております。



◀閃光に驚き、バランスを失う武士たち。



▲刀が振り下ろされるその瞬間、目が眩むばかりの閃光が走る。

佐渡歴史伝説館／日蓮聖人 佐渡法難

文化施設・商業施設・動刻・ディスプレイ・デザイン・設計・制御演出・施工

**kokoro**  
株式会社 ココロ

〒205-8556 東京都羽村市神明台4丁目9番1号  
TEL: 042-530-3939 FAX: 042-530-4050  
<http://www.kokoro-dreams.co.jp/>



<http://www.museumindocklands.org.uk/venuehire.htm>

<http://www.24hourmuseum.org.uk/logos/docklands.JPG>

### 米アイオワ州に、ミシシッピー川の博物館が開館

12年の準備期間を経て、このほどアイオワ州ドゥビューク市にミシシッピー川の博物館が2003年6月28日に開館した。同館は、ドゥビューク市を流れるミシシッピー川のウォーターフロントを再整備する総工費188百万ドルの事業「アメリカの川」の一環であり、5つの大型水槽をもった水族館、アメリカ大陸の河川の探検史をテーマにした歴史博物館、蒸気船を主体としたミシシッピー川における船舶と交易の歴史を紹介した屋外博物館、および魚類や鳥類等が棲む湿地帯のエリアによって構成されている。ミシシッピー川の博物館は、広さ36ヘクタールのドゥビューク港と呼ばれる地区にあり、コンベンションセンターも併設されている。National Mississippi River Museum & Aquarium  
<http://www.mississippirivermuseum.com/>

### チベットで初めての自然史博物館が開館へ

西藏(チベット)自治区林芝区でこのほど、チベットで初めての自然史博物館が2003年9月に開館することになった。林芝地区は「チベットの江南」「東洋のスイス」とも呼ばれ、自然が豊かなことで知られる。約3500㎡の延べ面積をもつ新しい博物館は、林芝区の有名なリシェン山の山麓に設けられる。林芝区はチベットの中でも森林が豊かな地域として知られており、トラ、ヒョウ、クマ等の野生動物が多く生息しているところでもある。博物館の整備と平行して、博物館に約1万㎡の生態園も将来完成される予定だ。

### バンクーバー海事博物館が、移転・拡張計画へ

施設の老朽化が進んでいるバンクーバー海事博物館は、このほど2010年開催予定の冬季五輪に併せて、バンクーバー港に面した旧石炭積み出し埠頭に移転して、開館する計画を発表した。1958年開館の現在の施設では、カナダ西海岸の海事史とバンクーバー港がはたしてきた歴史の紹介が中心だったが、発表された新しい施設では、「ブリティッシュ・コロンビア州への移民」「先住民」「内陸部への水運」「カナダ海軍の歴史」の紹介がテーマになっている。中でも、アジアからのブリティッシュ・コロンビア州への移民が目玉展示になっており、19世紀末から20世紀はじめにかけて太平洋航路を行き来した豪華客船「エンプレス・オブ・ジ

ャパン号」(1890年建造)の一等客専用のダイニング・ホールと主に貧しい中国からの移民が詰め込まれた船底の船室が再現されることになっている。総工費は50百万ドル、計画規模は約3700㎡、想定入館者数は約12万人(現在は約3万人)。Vancouver Maritime Museum

<http://www.vmm.bc.ca/>

### カナダのロイヤル・ティレル博物館に、新しい学習支援センターがオープン

17年前に開館したカナダのロイヤル・ティレル博物館(旧名:ロイヤル・ティレル古生物学博物館)が、このほど初めて施設の拡張を行い、新しい学習支援センターを5月に仮オープンした。約1500㎡の新しい施設は、百万ドルの寄付を提供したATCOグループにちなんで、「ATCO Tyrell Learning Centre」と命名された。新しい施設は、「地質学習室」「生物学学習室」「生態学習室」「化石クリーニング・化石発掘教室」「遠隔地学習プログラム開発室」によって構成されている。政治家を招いた正式オープンは8月19日。既に地元の学校と一般によって利用が始まっている。Royal Tyrrell Museum

<http://www.tyrrellmuseum.com/events/>

### デンバー自然科学博物館に、宇宙探査の常設展がオープン

デンバー自然科学博物館(旧デンバー自然史博物館)で、このほど外宇宙をテーマとした常設展『スペース・オデッセー』が2003年6月6日にオープンした。約1200㎡の広さをもつ新しい常設展では、最新の研究成果を取り入れて、「火星の地表のジオラマ」「ロボットを使った火星探査のシミュレーション」「レーザーを使った火星での水の発見」「火星の砂嵐再生実験」「火星のランドスケープ造成シミュレーション」「星の一生」「星の軌道ゲーム」「太陽の黒点とコロナの観察」等の展示コーナーによって構成されている。また宇宙空間における宇宙飛行士の船外での活動を撮した最新の映像も紹介するコーナーも設けられている。さらに、ハブル宇宙望遠鏡が捕らえた宇宙の映像が大型スクリーンで紹介されている。『スペース・オデッセー』に併せて、プラネタリウムも大々的に改装されてオープンした。Denver Museum of Nature & Science

<http://www.dmns.org/exhibits/spaceOdyssey/index.html>

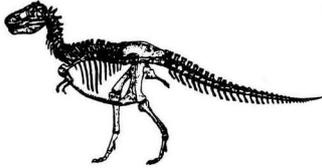
\* (やすい・りょう) E-post: RGYasui@obirin.ac.jp

# 9月10月の特別展

開催館	展覧会名	開催期間
陸前高田市立博物館	秋の特別展「学校のお宝展」	11月1日～1月31日
陸前高田市海と貝のミュージアム	夏期特別展「タカラガイ・イモガイの世界展」	7月20日～11月30日
産業技術総合研究所 地質標本館	特別展「富士山 現在 過去 未来」	7月26日～9月28日
栃木県立博物館	企画展「トンボー-日本人に愛されてきた水辺のハンター-」	7月13日～9月15日
	自然系テーマ展「足尾銅山と写真師小野崎一徳」	7月20日～11月3日
	人文系テーマ展「栃木の平野のくらし(畑作)」	4月27日～9月15日
	人文系テーマ展「巡回展 栃木の遺跡-最近の発掘調査の成果から-」	7月13日～9月15日
群馬県立自然史博物館	第19回企画展「フェアブル昆虫記の世界」	7月19日～9月7日
	第20回企画展「毒と薬-毒をあやつる生き物たち-」	10月4日～11月24日
狭山市立博物館	企画展「博物館からケースが消えた!? さわってあそぼう! 木のおもちゃ」	7月12日～9月7日
所沢航空発祥記念館	夏休み特別展「宇宙をめざせ! 宇宙開発と地球」	7月19日～9月23日
	特別展「探検! ヘリコプターの世界」	10月4日～12月7日
埼玉県立自然史博物館	企画展「夏休み! 自然の調べ方」	7月12日～9月23日
千葉県立中央博物館	特別展「野の花・今昔」	9月23日～11月24日
我孫子市鳥の博物館	企画展「鳥の羽のふしぎ」	6月28日～9月28日
国立科学博物館	特別展「THE 地震展」	8月1日～10月26日
国立科学博物館附属附属自然教育園	企画展「鳴く虫」	8月31日～9月7日
たばこと塩の博物館	企画展「シガーラベルの世界～葉巻の箱の小さな芸術～」	9月6日～10月19日
目黒寄生虫館	特別展「エキノコックス症」	4月29日～9月28日
府中市郷土の森博物館	特別展「遺跡の世界2003～埋められた銭の謎&最新発掘速報～」	9月14日～10月26日
東京都高尾自然科学博物館	企画展「どんぐりのふしぎ」	7月19日～12月14日
三菱みなとみらい技術館	特別展示「STOP! 地球温暖化 ぼくらはみんなエコレンジャー!」	3月18日～9月28日
横須賀市自然・人文博物館	特別展「近代日本外交の始まり-ペリー来航から万延遣米使節への歩み」	8月1日～12月28日
神奈川県立生命の星・地球博物館	特別展「侵略とかく乱のはてに-未来につなげる自然とは-」	7月19日～9月15日
糸魚川市フォッサマグナミュージアム	夏季特別展「ふしぎな石展」	7月19日～9月15日
	夏季特別展「ニュートリノ展」	7月5日～9月7日
新潟県立上越科学館	「科学館標本作品展」	9月23日～10月5日
立山カルデラ砂防博物館	収蔵品展「立山カルデラの甲虫」	9月5日～9月15日
黒部市吉田科学館	「黒部少年少女発明くふう展」	9月20日～10月7日
	「黒部市小中学校児童生徒科学作品展覧会」	9月20日～10月7日
富山市科学文化センター	特別展「からくり」	7月17日～9月15日
	第55回 富山市小・中学校科学展覧会	9月20日～9月23日

開催館	展覧会名	開催期間
富山市科学文化センター	富山県ナチュラリスト協会写真展	9月27日～10月13日
いしかわ動物園	「動物園写生コンクール・入選作品展示」	9月3日～10月3日
	「動物園フォト・コンテスト・作品展示」	10月4日～11月3日
飯田市美術博物館	特別展「平山郁夫コレクション ブッダの生涯とガンダーラをめぐる人びと」	8月15日～9月23日
	特別陳列「自然の不思議―色から探る鉱物の世界―」	7月12日～9月23日
岐阜県博物館	夏季特別展「昭和、くらしの歩み～30年代を中心に～」	7月19日～9月7日
	秋季特別展「野の幸・山の幸、岐阜～発見！キノコと山菜、薬草の魅力～」	9月27日～11月24日
中津川市鉱物博物館	第7回企画展「飯盛里安博士97年の生涯―放射性鉱物研究の先達―」	8月3日～11月23日
ディスカバリーパーク焼津	特別展「たのしい化石」	10月9日～11月24日
豊橋市自然史博物館	第18回特別企画展「アゲハチョウー遺伝の秘密 ABCー」	7月11日～9月15日
	小柴昌俊ノーベル賞展	6月28日～9月28日
	収蔵資料紹介展「どんぐり展」	9月20日～12月7日
あいち健康の森健康科学センター 健康科学館	夏季特別展示「発見・体験・伝記展」	7月19日～9月23日
	秋季特別展示「いろいろな秋に挑戦しよう」	10月11日～11月30日
トヨタ博物館	企画展「親子で楽しむクルマランド」	7月18日～9月21日
	ギャラリー展「フランス車」	7月15日～10月13日
鳥羽水族館	企画展「ボーンズ博士のホネ研究所」	7月12日～11月30日
伊丹市昆虫館	「虫はしぜんのビックリ箱！～きみのとなりの!?虫～」	7月16日～9月8日
兵庫県立人と自然の博物館	企画展兵庫の貴重な自然～「いきもの」共生の「まほろば」～	9月20日～12月21日
倉敷市立自然史博物館	特別陳列「高山植物写真展」	7月12日～10月13日
	特別陳列「秋の鳴く虫展」	8月31日～9月15日
広島市こども文化科学館	企画展「賢治の見た星空」(写真展)	8月10日～9月14日
	「地図ならびに地理作品展」	9月20日～10月4日
山口県立山口博物館	スポット展示「時計とこよみ」	10月21日～11月30日
愛媛県立博物館	テーマ展「甲虫のなかま」	8月1日～9月26日
	テーマ展「高縄半島の植物」	10月1日～11月27日
愛媛県総合科学博物館	企画展「渡るチョウ」	9月20日～10月19日
	巡回展「日本自然科学写真協会写真展」	10月25日～11月9日
福岡県青少年科学館	「宇宙の日絵画展」	9月13日～9月23日
	「理科工作作品展」	10月11日～10月26日
出水市ツル博物館クレインパーク いずみ	第17回企画展「マンモス復活大作戦！」	7月19日～10月13日
佐賀県立博物館	自然史テーマ展示「生き物のふしぎを見よう」	7月15日～9月18日

※世界の化石・  
 鉱物・恐竜・化石  
 人類・動物骨格  
 標本及び模型の  
 輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式会社 **ゼネラルサイエンス**  
 コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂 3-11-14 赤坂ベルゴビル802  
 TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・  
 監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…。

**株式会社丹青社**

〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)  
 札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡  
 URL <http://www.tanseisha.co.jp>

省スペース展示に最適な、小型ドームCG映像システム  
**メディアグローブ、誕生**

メディアグローブは世界で初めてフルカラー  
 投映を可能にした小型・高精細のデジタル  
 プラネタリウム。さらにドーム全天に高画質な  
 CG映像を投映するマルチ投映機能を持ち、  
 さまざまなシーンで活躍します。

▶各種イベント等にも対応。レンタルもご相談ください。

ISO 14001 認証取得

**ミノルタプラネタリウム株式会社**  
 〒108-0074 東京都港区高輪2-19-13 TEL.03-5423-7571  
 〒442-0067 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL.0533-89-3570  
 〒569-0807 大阪府高槻市桜町1-2 TEL.072-685-1011  
<http://www.minolta.com/japan/mp/index.html>




INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT  
**ONY KOBO CO.,LTD.**

東京都千代田区神田神保町2-7-3シグマ神保町4階  
 TEL.(03)3221-1102(代) FAX(03)3221-1185



動物園／水族館／博物館  
 企画・設計・施工

全科協情報

[平成15年度学芸員専門研修アドバンスト・コースのご案内]

国立科学博物館では、下記の要領で「平成15年度学芸員  
 専門研修アドバンスト・コース」を実施します。参加ご希  
 望の方には実施要項をお送りいたしますので、国立科学博  
 物館企画課研修係（電話03-5814-9876、e-mail:fujimoto  
 @kahaku.go.jp）までお問い合わせください。

趣旨：自然科学系博物館に勤務する中堅学芸員を対象に、  
 一層の資質向上を目的として高度な内容の研修を実  
 施します。

主催：独立行政法人国立科学博物館、全国科学博物館協議会

期間：平成15年10月27日(月)～10月31日(金)（5日間）

対象：自然科学系博物館等において自然科学系部門を担当  
 する学芸員等専門職員

募集人員：30名（各コース10名）

会場：国立科学博物館新宿分館

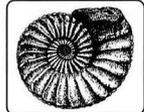
研修内容：総合講座（各コース共通）と専門講座（今年度  
 は動物、植物、理工の3コース）とします。詳  
 細については実施要項をご参照ください。

\*概要は国立科学博物館のホームページでもご覧  
 いただけます。<http://www.kahaku.go.jp>

申込み締め切り：平成15年10月17日(金) ※予定

**TOKYO SCIENCE CO., LTD.**

**ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本**



地学標本(化石・鉱物・岩石)  
 古生物関係模型(レプリカ)

大英博物館/恐竜復元模型

since 1974

●常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)

**東京サイエンス**  
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イフォ・アネックスビル  
 TEL.03(3350)6725 FAX.03(3350)6745  
<http://www.tokyo-science.co.jp> E-mail:info@tokyo-science.co.jp

全科協ニュース編集委員会

NHK放送博物館 チーフディレクター 河野光子  
 滋賀県立琵琶湖博物館 企画調整課長 高橋啓一  
 ミュージアムパーク茨城県自然博物館

資料課長 國府田良樹

独立行政法人国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課長 井上透

独立行政法人国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課専門職員原田紀子

全科協事務局

国立科学博物館 展示・情報部情報サービス課 村上 剛  
 Tel.03-5814-9857 Fax.03-5814-9898

発行日 平成15年9月1日

発行 全国科学博物館協議会©

〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 島崎印刷株式会社